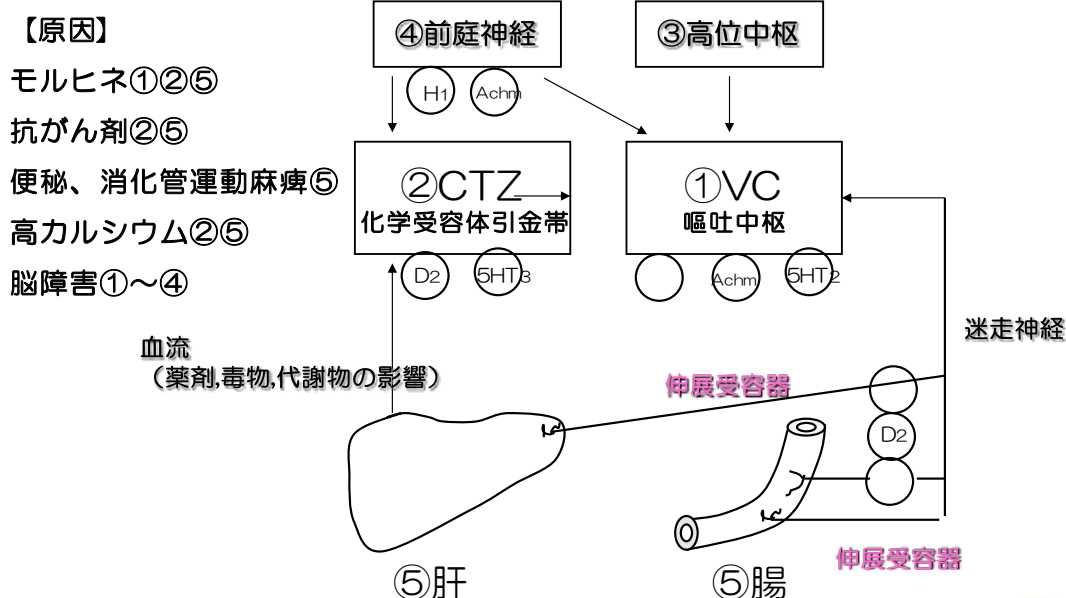


領域 5-1-10 消化器症状

消化管閉塞がないときのモデル



(Oxford Textbook of palliative Medicine 3rd 2004より改変)
緩和医療教育スライド 消化器症状「消化管閉塞がないときのモデル」より改変して引用



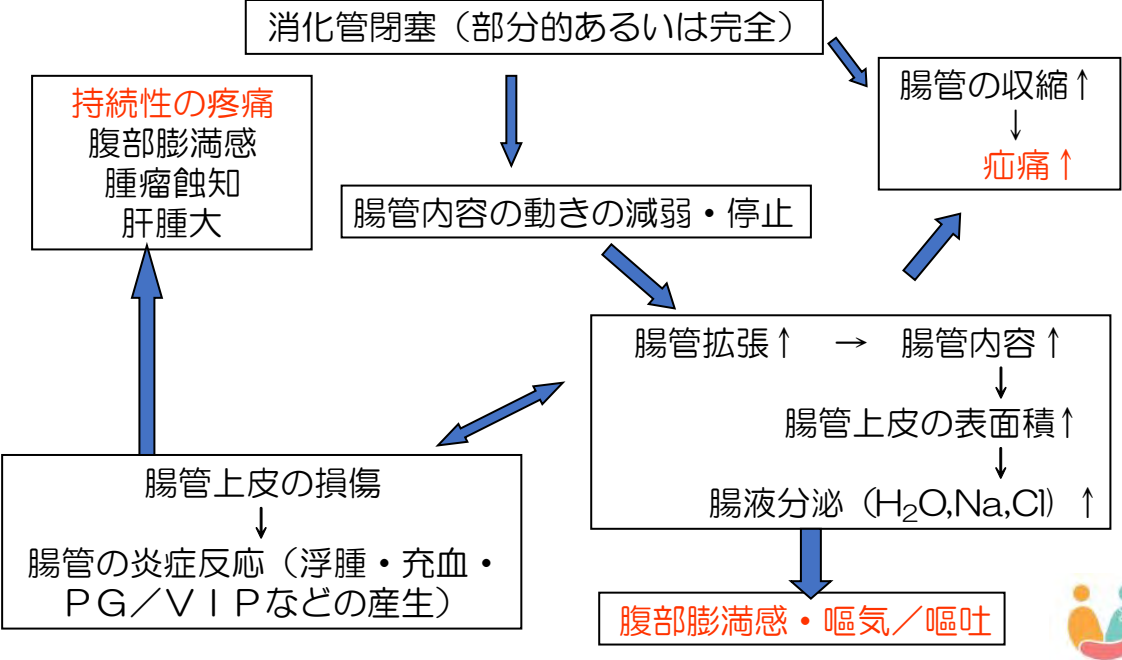
症状・病態と制吐薬の選択

臨床症状	病態	薬剤の種類
<ul style="list-style-type: none"> ・動くと悪化する ・めまいを伴う 	前庭神経の刺激	抗ヒスタミン薬
<ul style="list-style-type: none"> ・持続的な嘔気・嘔吐 ・オピオイド血中濃度に合わせて増悪 	化学受容体 (CTZ) の刺激	ドパミン受容体拮抗薬
<ul style="list-style-type: none"> ・食後に増悪 ・便秘 	消化管蠕動の低下	消化管蠕動亢進薬
<ul style="list-style-type: none"> ・蠕動痛がある 	消化管蠕動の亢進	抗コリン薬
<ul style="list-style-type: none"> ・原因が複数、もしくは同定できない 	複数の受容体	複数の受容体拮抗薬

PEACEプロジェクト緩和ケア研修会資料 (旧指針) 「M-6b 消化器症状 (悪心・嘔吐)」 (症状・病態と制吐薬の選択) より一部改変して引用

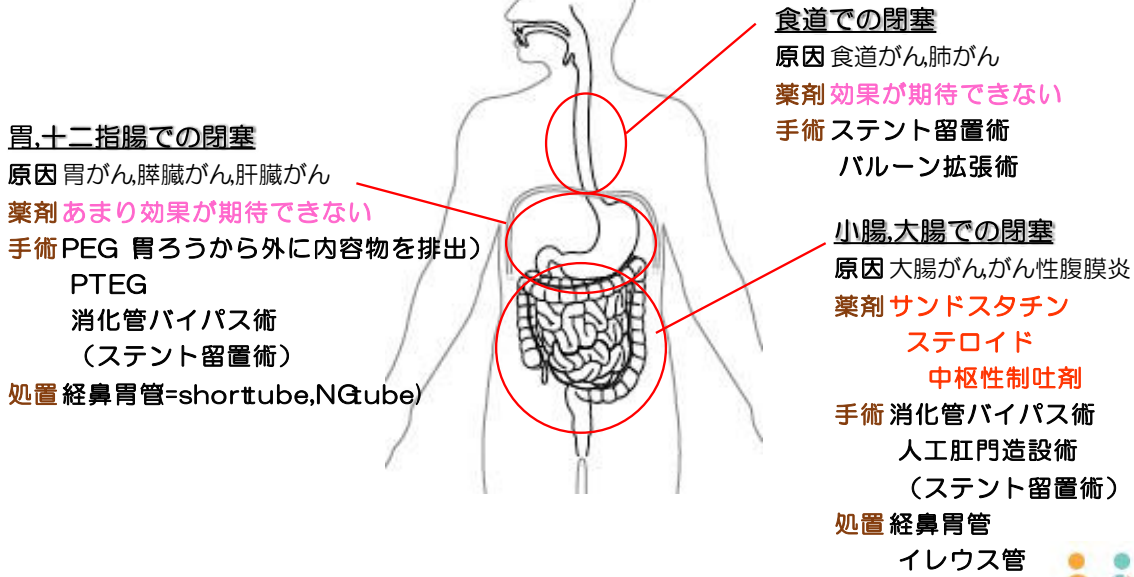


悪性消化管閉塞の症状



悪性消化管閉塞のマネジメント

手術,ドレーナージの処置の使い分けは・・・



個々の患者様の全身状態, 処置の侵襲度により選択する方法が異なる

腹水濾過濃縮再静注法の方法

(旭化成クラレメディカル(株) 説明書より引用 (監修加藤道夫))



C A R T 前 → 7000m l 採取 → C A R T 後
700m l 点滴戻し

